

成果報告書

支援機器等導入実証事業
自立支援機器を活用する就労支援プロジェクト

成果報告書

令和 8 年 3 月

(ピクシーダストテクノロジーズ株式会社)

目 次

I. 事業概要

1. テーマ.....	3
2. 事業概要.....	3
(1) モニター評価チーム.....	3
(2) 製品概要.....	3
(3) モニター評価の概要.....	4

II. 事業報告

1. 背景と目的.....	4
2. 実施内容.....	4
3. 実施手法.....	4
4. 実施結果.....	5
5. 所感.....	7
6. 今後の予定.....	7

I. 事業概要

1. テーマ

「誰が」「何を」話しているかをリアルタイムに可視化するサービス VUEVO（ビューボ）によるインクルーシブコミュニケーションの実証

2. 事業概要

(1) モニター評価チーム

開発事業者 Pixie Dust Technologies、仲介者 Ridgelinez、一般企業株式会社竹中工務店の三者協働により、言語聴覚士を含むクロスファンクショナルチームでモニター評価を実施。



(2) 製品概要

①カテゴリ	コミュニケーション支援サービス
②製品名	VUEVO（ビューボ）
③型番	PDVM0001
④製品コード	-
⑤希望小売価格	オープン
機器の特徴	
⑥主な対象者	聴覚障がい者
⑦利用場面	会議、雑談
⑧目的	会議や雑談など複数人の会話における会話の方向と会話内容をリアルタイムに可視化

(3) モニター評価の概要

II. 事業報告

1. 背景と目的	<p>VUEVO は会議など複数人の会話で「誰」が「何の」話をしているかリアルタイムに可視化するサービスである。2023 年 3 月に発売をして以降、聴覚障がい者と健聴者が同じ情報をリアルタイムに共有できる「インクルーシブコミュニケーション」として一定普及してきているが、改めて聴覚障がい者が自身の能力を最大限に発揮して業務を行えることを定量・定性の側面から効果実証するために本事業を実施することとした。</p> <p>具体的には、業務内における聞き漏れ・再確認による時間ロスと心理的負担に関わる定量・定性効果を実証し、サービス導入を検討している聴覚障がい者を雇用する企業に対しエビデンスを示すとともに、今後の製品・サービスの改善を図りたい。</p>
2. 実施内容	<ul style="list-style-type: none">・ 期間：令和 7 年 11 月 10 日～令和 8 年 1 月 16 日・ 対象者：①聴覚障がい社員、②①の上司・同僚・ 人数：①4 名、②5 名の計 9 名
3. 実施手法	<p>Step 0：導入準備・事前評価</p> <ul style="list-style-type: none">・ 属性調査、定量評価項目の事前評価 <p>Step 1：機器利用・新規 UI の設計</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会議（定例、アドホック）の場面で VUEVO を使用（適宜サービス利用をサポート） <p>Step 2：事後評価</p> <ul style="list-style-type: none">・ 定性評価：インタビュー／アンケートによる定量評価項目の事後評価・ 新規開発予定のユーザーインターフェースの有効性ヒアリング <p>評価項目：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会議における当事者による話者識別度の 10 段階評価・ 会話理解度 10 段階評価・ 会議における発言回数・ 会議において当事者が持つ会話の不安感の 10 段階評価・ 会議内容把握にかかった時間・ 会議において周囲が認識のずれを感じた回数・ 自席業務中における周囲の会話から得られる情報量の 10 段階評価・ 会議参加／招集率

4. 実施結果	<p>VUEVO は内容や話者に関して得られる情報量を増やし、業務参加・貢献度を高めるツールとして機能していた</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障がい者の業務への貢献度合いの向上 ・情報を自力で取得・理解できる安心感が向上し、聴覚障がい社員の発言量が増加 ・健聴者を含むチーム全員が「平等な情報共有」できる環境を実現 <p>■定量アンケート</p> <p>1. 情報把握に関する変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議・会議外の双方において、話者識別・会話理解に関する評価が、本人・上司/同僚の両視点で約 20~30%向上した ・本人の情報把握自体の負担が 83.8%減少していることが示された ・自席においても、周囲の会話から得られる情報量が 90.9%増加した <p>2. 発言回数の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議中における発言回数が、本人の感覚では 80%増加、上司/同僚の両視点でも 15.8%増加と、大きな変化が確認された <p>3. 効果の出方に関するばらつき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象サンプル数が限られている (n=4~5) こともあり、すべての項目で一様な変化が見られたわけではなく、項目によって変化の大きさに差が見られた <p>■定性インタビュー</p> <p>1. 聴覚障がい者の業務への貢献度合いの向上</p> <p><u>「誰が話しているか」という情報の重要性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話者の方向が分かることや、少ない誤変換かつ変換スピードそのものの向上により、会話の流れを追い続けやすくなり、内容理解が早まった ・聞き取りの負担や会議後の確認作業が減少し、業務内容そのものを考える時間が増えた <p>2. 情報を自力で取得・理解できる安心感が向上し、聴覚障がい社員の発言量が増加</p> <p><u>「初動の早さ、確認行為の減少」という効果</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議内容の理解度が従来の 60~70%程度から、条件が整った場合には 80~90%程度まで向上し、「内容が合っているか不安で発言できない」状態が軽減された ・話者や発話状況を瞬時に把握できるようになったことで、正しく情報を理解できているという実感が高まり、自信を持って意見を出せるようになった結果、挙手や発言など自発的な発信が増えた

・会議後や会議中の聞き取りや内容確認に要していた負担が軽減されたことで、考える余裕が生まれ、発言のレパートリーが増えたり、チャットへの書き込み速度が向上した

3. 健聴者を含むチーム全員が「平等な情報共有」できる環境を実現

・誰が、どの方向から発話しているかが可視化されることで、聴覚障がい者・聴者を問わず会話内容を同じタイミングで把握できる環境が整った。2人同時発話や周囲の雑音がある状況でも注目すべき発言が分かり、会議への参加感が高まった

・これまで必要だった全員への専用アプリ導入や、発話開始・終了操作などの負担がなくなり、新しいメンバーや端末環境に依存せず自然に会話を開始できる点が、心理的な負担軽減に繋がった

4. 導入・操作について

・持ち運びが容易で、操作自体も直感的で分かりやすく、初めての利用でも大きくつまづくことは少ない

・操作自体は難しくないものの、ON/OFF 状態の視覚的な分かりづらさや、参加者の名前を毎回手動で入力する必要がある点は、改善を望む意見があった

・集音性能が高い一方で、エコーや周囲の機器音を拾ってしまう場合があり、マイク周辺に障害物を置かない、会議室環境の工夫など運用上の配慮が必要とされた

<p>5. 所感(使用にあたっての意見・感想) ※モニター実施機関コメント</p>	<p>当事者の方から当サービスの試行の要望があり今回モニターに協力させていただきました。当事者の方が会議で課題に感じていた「誰が話しているか口元を見て探していた」状況の解決案として、音が発せられている方向を見える化できる当サービスに期待をされていたようです。実際モニターさせていただき、使用条件を整えることで、方向をきちんと認識できていると感じました。また、音声認識の性能も高く誤字も少ない、複数名の発言を個別認識できる、AI 議事録も概ね合っており当事者、当事者の周りの方のご協力があれば、業務上活用していけると感じています。更なる音声認識の性能の向上はもちろん、使用シーンの拡大など引き続きサービスの向上を期待しております。</p>
<p>6. 今後の予定</p>	<p>1. 本事業により得られた成果の活用、普及啓発を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト実施のプレスリリース配信 ・弊社 HP への掲載および各種営業資料やリーフレットへの掲載 ・製品紹介時の動画活用 ・既存ユーザーや接点のある対象者へのメール配信 <p>2. 本事業の新規 UI や機能に関するユーザーヒアリングをもとにアップデート実施</p> <p>今回得られた結果をもとに社内にて有効性を含めた再検討を行い、アップデートに向けて開発を進める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミニウィンドウ ・絵文字リアクション ・定型文リアクション ・ブラウザから会話開始